

大会実施要領

(第2部)

1、基本「指定科目」練成

- (1) 始礼
- (2) 正面
- (3) 右小手
- (4) 右胴
- (5) 小手一面
- (6) 小手一胴
- (7) 小手一面一胴
- (8) 正面—引き面
- (9) 正面—引き小手
- (10) 正面—引き胴
- (11) 小手一面—引き胴
- (12) 切り返し
- (13) 終礼

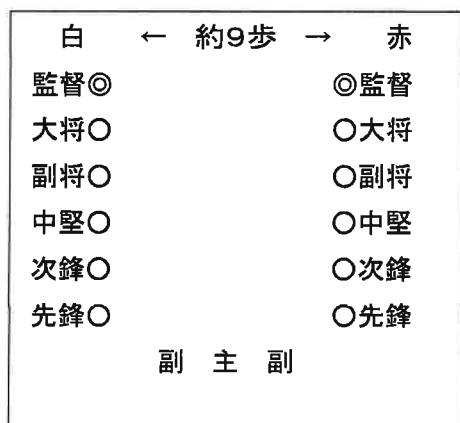
2、試合形式

- (1) 監督が「元立ち」で主審の合図により、先鋒の選手より上記(1)～(13)の指定科目の技を格技ごとに連続して「1回」行う。
- (2) 監督、選手の使用する竹刀の長さは、108センチ(約3.6尺)以下とする。

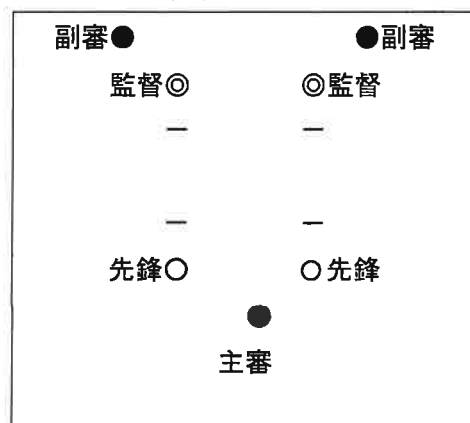
3、試合及び審判要領

- (1) 試合開始及び終礼の際の礼は、監督、選手全員が面、小手をつけ、竹刀を持って行う。
- (2) 相互の礼及び試合の隊形は、下記のとおり。

試合前後の礼法



試合の隊形



- (3) 試合の開始は、監督と選手が相対して「礼の位置」に提げ刀の姿勢で立ち主審の「始め」の宣告で指定科目「始礼」から試合を開始する。
- (4) 指定科目「終礼」を終えた監督選手は、礼の位置に戻り審判の判定を待つ。
- (5) 両チームの試合者(監督、選手)が「礼の位置」に戻った時点で主審は、「判定」と通告し勝旗を確認して「勝負あり」と宣告する。
- (6) 審判員は、「判定」の通告で一斉に勝旗(赤、白)を挙げる。(審判員の判定に引き分け及び棄権は、認めない。)

4、判定基準

- (1) 正しい礼法、着装ができているか。
- (2) 充実した氣勢があるか。
- (3) 竹刀の振りは正しいか。
- (4) 打ちの強度はあるか。
- (5) 足の運びは、正しいか。
- (6) 一足一刀の間合いから打っているか。
- (7) 竹刀の打突部で相手の打突部位を正しく打っているか。
- (8) 技が正確(気剣体一致)であるか。
- (9) 技に適した体さばきができているか。
- (10) 最後まで気合と態勢がくずれないか。
- (11) 残心がなされているか。

(第3部)

1、基本「指定科目」基本練成

- (1) 始礼
- (2) 正面
- (3) 右小手
- (4) 右胴
- (5) 小手一面
- (6) 小手一胴
- (7) 小手一面一胴
- (8) 切り返し
- (9) 終礼

2、試合形式

- (1) 選手は稽古着・袴(防具はつけないで)で、監督を元立ちにして上記(1)～(9)の指定科目を各技ごとに連続して1回行う。

3、試合及び審判要項及び判定基準

- (1) 試合の隊形及び判定基準は、第2部と一緒にする。